

「米原新時代」に向けて…

ひらおみちお
まいばら
米原市長(滋賀県) 平尾道雄



交通の結節点、鉄道のまち「まじばら」

「米原駅って何もないですね」。いろんな場面で、そういう声を耳にします。事実、その通りなのですが、今まさに米原市は「変革の新時代」を迎えようとしています。

本市には、滋賀県で唯一の新幹線が停車する「米原駅」があり、古来、交通の要衝として栄えてきました。高速道路やJR東海道線・北陸本線、近江鉄道などが接続し、その地位が変わりはありません。かつて湿地帯が広がり葦が群生していたため「迷いが原」から「まいはら」と言われ、駅周辺は琵琶湖が広がっていました。旧街道の中山道から続く「米原湊」が栄え、湖上交通を通



雄大な伊吹山を背景に走る新幹線

じて京の都へと物資が運ばれており、時代の流れとともに、鉄道交通へと移り変わり、新幹線停車駅「米原駅」が誕生しています。

東海道新幹線が開業したのは、東京オリピックが開催された昭和39年（1964年）、私が14歳のときでした。当時は、将来自分が行政に関わるなどとは夢にも思っておらず、東京オリピックの盛り上がりとともに、日本が変わっていく「ワクワク感」があったのを覚えています。私は市内で生まれ育ち、大学は東京でしたが、再び故郷に戻り、地元のために働くことを決意しました。そして、米原町職員から米原市職員を経て、合併後の初代米原市長に就任しました。

本市は、日本百名山の名峰・伊吹山を取り囲むように豊かな自然が広がり、山の生態系の頂点に立つイヌワシをはじめ、特別天然記念物のゲンジボタル、国蝶オオムラサキ、絶滅危惧種ハリヨ、琵琶湖の寶石・ビワマス、水辺に咲く水中花・梅花藻など、貴重な動植物が生息しています。

私の趣味は、ノルディックウォークですが、周辺の田園からは、四季折々の「伊吹山」の風景が目の前に広がります。豊かな自然の象徴でもある伊吹山を背景に、最新の技術が凝縮された新幹線が通過するコントラストが印象的で、人々が行き交う現代の街道と豊かな自然を感じる瞬間です。

本市には、伊吹山から石灰を運び出した

廃線敷や戦時中に蒸気機関車を隠すためにつくられた避難壕なども残っており、まさに「鉄道ゆかりのまち」です。

「水の恵み」と「スポーツ」から生まれたつながり

本市は、伊吹山の雪解け水や市内の水源地から流れ出る湧水など、琵琶湖の水の貴重な供給源ともなっており、山から、川、湖へと続く自然の営みや水辺に息づく文化を肌で感じるができます。

市内にある250を超える水源の中には、「名水百選」と「平成の名水百選」に選定されている水源もあり、おいしい水とその水辺の景観は「日本遺産」にも認定されています。

伊吹山は世界一の積雪量、11m82cmを記録したこともあり、降雪地域としても知られています。私の家は「薪ストーブ」だけで冬の暖をとっていますが、その「薪割り」をするのも、雪国の暮らしの楽しみとなっています。

市内の中山間地域は、過疎・高齢化で「限界集落」などとも言われましたが、私たちは、誇り高く「水源の里」と名付け、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉に、平成19年（2007年）に、国などに政策の展開や支援を呼びかけ、全国水源の里連絡協議会を立ち上げました。

このつながりがご縁で、先駆けである京都府綾部市の取り組みに学び、「水源の里



水中に美しく咲く花「梅花藻」



本市出身の女子ホッケー清水美並選手と共に

登山やトレッキング、登山マラソン、サイクリングなどのアウトドアスポーツも盛んに行われており、グランピングやキャンプ場、スノーリゾートもある関西随一のアウトドアスポットとして、県内外から多くの観光客が訪れています。

まいばら元気みらい条例」を制定し、東日本大震災で被災された福島県相馬市とも災害時応援協定を締結できました。また、本市は水辺に飛び交う「ホタル」も有名で、「全国ほたるサミット」の開催を通じ、参加市町とも応援協定を締結しています。

一方で、本市は「ワールドホッケーのまち」として知られています。地元からはオリンピックアンが輩出され、令和元年度には、ホッケー日本リーグに参戦する男子クラブチーム「BlueSticks SHIGA」も県内で初めて誕生しました。こうしたスポーツのつながりにより、ニュージラード男子ホッケーチームとのホストタウン事業なども展開しています。

「コロナ禍の今こそ」、「米原新時代」へ

市長就任3期目、いよいよ米原も変化のときを迎えました。

合併以来の念願であった市役所の新庁舎について、さまざまな議論を経て米原駅東口に整備することが決まり、令和3年3月に完成する予定です。また、米原駅と庁舎をつなぐ連絡通路も計画しており、新幹線駅直結の市役所が誕生します。そして同時に、米原駅東口での民間事業者によるまちづくり事業も計画され、令和3年度のまち開きを目指しています。

滋賀県では、ビワイチ（琵琶湖一周サイクリング）が盛んに行われており、米原駅構内にレンタサイクルの拠点を整備しています。令和元年度には、ビワイチが日本を代表する「ナショナルサイクルルート」の指定を受けました。さらに、滋賀県の東の玄関口としての役割を果たすべく、新庁舎の完成を契機として、近隣市と連携による広域観光拠点の整備を進めています。

新型コロナウイルスにより、都市と地方の関係、人の流れ、社会の在り方が大きく変わろうとしている今、豊かな自然や本来の生活の営みが残る地方にこそ、大きな可能性があると感じています。近い将来には、リニアや新幹線により、都心部と約1時間10分つながります。今

こそ、米原の交通の利便性や駅の立地条件を最大限に活用し、本市にしかできない役割を果たしたいと思っています。

私の座右の銘は、「我以外皆我師也^{われがみなわがしなり}」であり、これまで多くのことを学ばせていただきました。私の財産は、市民や地域とのつながりであり、その米原市を支えてくれている市職員にほかなりません。

この変革の新時代だからこそ、「ともにつながり」ともに創る住みよさ実感 米原市」の実現に向けて、市民の皆さんに「ワクワク感」を感じていただけるような「米原新時代へのまちづくり」を進めてまいります。



米原駅東口周辺のまちづくりイメージ (Copyright2019 UDS Ltd.+Ryuichi Ashizawa Architects&associate)